

## 巻頭の辞

BJ ジャーナル編集長  
堀井 恵子

2019年が幕を閉じたとき、2020年に何が起こるのか、何人が予想できたでしょうか。

TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックが期待されていた2020年は、世界中の誰にとっても例のない大変な1年となって終わろうとしています。コロナ感染症拡大防止のため、ソーシャルディスタンス、ステイホーム、自粛、不要不急、三密など、これまで使われたことのない言葉が毎日のようにメディアから流れ、小中学校も一時は休講となり、大学や日本語教育機関の授業はオンラインとなりました。学会や研究会も当初は中止、そして、オンライン開催となりました。出入国が制限され、大学に入学したが来日できない留学生も少なくなく、日本語教育機関への入学者の多くがキャンセルとなり、日本語教育にも大きな影響が出ています。

しかし、余儀なく始められたオンライン活用には様々な可能性が見いだされました。研究会で委託を受けた文化庁事業「就労者に対する日本語教師への挑戦」もオンライン開催によって、受講生は日本各地から、移動時間も交通費/宿泊費もかからず受講ができた喜んでくれていました。

そのような中、おかげさまで『BJ ジャーナル』第4号が無事発行となりました。

第4号には10本の投稿論文から厳正な査読の結果、研究論文2本、実践報告1本、そして研究・実践ノート2本が掲載されています。ビジネス日本語に特化したジャーナルとして、ご一読いただければ幸いです。

第5号の募集も間もなく始まります。これからも社会からのニーズが一層高まると思われるビジネス日本語教育に関する研究の活性化、質的向上のため、多くの方からの投稿を期待しています。

応募要領は研究会ホームページをご覧ください。